

# シンポジウム

# 持続可能な 災害ボランティアの あり方を考える

参加費  
無料

定員  
150名

<当日参加も可能ですが、できるだけ事前にお申込みください>

2019年 **3月25日** (月)  
**13:00 ~ 16:00**

会場

札幌市北区北 24 条西 5 丁目  
**札幌サンプラザ**  
2 階高砂の間

阪神・淡路大震災、東日本大震災を契機に、我が国では災害時におけるボランティア活動が社会に定着した感があります。とはいえ、災害発生当初は大勢のボランティアが集まるけれど長続きしないのも現実です。長期継続型のボランティア活動の定着に向けてその課題と展望を話し合います。

## 第1部 基調講演：災害支援活動の現状と課題

日本財団災害対策チーム・アドバイザー 黒澤 司氏



1989年日本財団に入社しボランティア団体の立ち上げや活動支援を行う中、阪神・淡路大震災より被災地支援での携わりから全国の被災地で救援活動に従事。現在、DRT-JAPAN(技術系災害ボランティアネットワーク)主宰、NPO法人国際ボランティア学生協会(IVUSA)特別顧問等、幅広く活躍。

## 第2部 活動報告：東日本大震災の過去・現在・未来

特定非営利活動法人 移動支援 Rera 代表 村島 弘子氏



北海道札幌市の出身で、東日本大震災直後から宮城県石巻市で障害者支援のボランティアとして活動。移動手段がない高齢者や障害者のために送迎サービスを開始し、その後石巻市に移り住んで、移動支援を続けている。「暮らしの足」の問題は被災地に限らず誰もが健全な生活を送る上での普遍的な課題と考え、全国でのノウハウの共有やネットワーク化に取り組んでいる。

## 第3部 シンポジウム：持続可能な災害ボランティアのあり方を考える

パネラー：黒澤 司

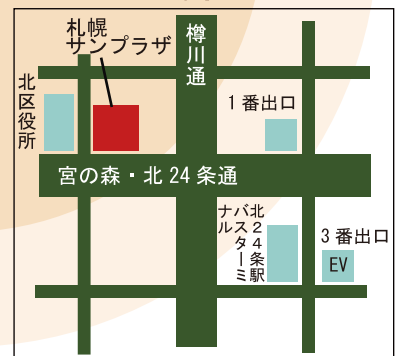
村島 弘子

定森 光 (北海道 NPO サポートセンター)

アドバイザー：竹田 保 (ホップ障害者地域生活支援センター 代表)

コーディネーター：中岡 良司 (ホップ福祉問題研究所 所長)

### 会場案内



北 24 条バスターミナル・地下鉄  
南北線北 24 条駅より徒歩 3 分

### お申込み・お問合せ



札幌市東区北 20 条東 1 丁目 5-1 大西ビル 1F 特定非営利活動法人 ホップ障害者地域生活支援センター

電話：011-748-6220 FAX：011-748-6221

メールアドレス 担当  
aas49970@par.odn.ne.jp 中岡

※裏面申込み欄に必要事項をご記入の上、FAX またはメールにて申し込み願います (3月17日締切)